

2022年1月31日
国立大学法人京都工芸繊維大学
マクセル株式会社

京都工芸繊維大学とマクセル、包括技術交流に関する協定を締結 人材育成、研究・技術の向上・発展を図り、社会課題の解決をめざす



締結式の様子

国立大学法人京都工芸繊維大学(学長:森迫 清貴/以下、京都工芸繊維大学)とマクセル株式会社(取締役社長:中村 啓次/以下、マクセル)は2022年1月31日、包括技術交流に関する協定を締結しました。

本協定は、京都工芸繊維大学の教員とマクセルの従業員が、積極かつ有効的な技術の包括交流の促進により、双方の研究・技術発展を図ることを目的に、以下の「技術交流事項」について定めたものです。

<技術交流事項>

- ・技術相談、技術調査および技術利用の実施
- ・技術情報および研究情報の提供
- ・人材の育成・交流の推進
- ・新事業、新製品の開発のための研究連携

京都工芸繊維大学とマクセルの交流により、お互いの持つ技術や知見を融合・実装させ、地域社会の課題解決をめざします。また、技術者の交流を活発化させ、互いのレベルアップを図ります。

共に京都に位置する大学と企業が、伝統を重んじながらも時代の変化に柔軟に対応していくことで、長期的に本協定を発展させていきます。

■協定締結にあたってのコメント

【京都工芸繊維大学 学長 森迫 清貴からのコメント】

京都工芸繊維大学は、京都が持つ知と技を活用して、教育研究を展開し、新たな価値創造による次世代の社会システムを構築することにより、地球と日本の未来に、人類が「平和で豊か」な美しい社会を育むことに貢献することを社会的使命として掲げています。本協定により、本学教員とマクセル社員が連携を深め、さまざまな社会課題に向き合うことで、より一層大きな社会貢献を果たしていくことをめざします。

【マクセル株式会社 取締役社長 中村 啓次からのコメント】

マクセルは、「混合分散」「精密塗布」「高精度成形」の独創技術であるアナログコア技術を活かし、持続可能な社会へ貢献し続けています。本協定では、大学における先端的技術との掛け合わせにより、新たな事業への挑戦をめざします。人材の幅広い交流を通じて、京都工芸繊維大学の歴史や伝統文化の中から生み出される斬新なアイデアを取り入れることで、時代の変化を先取りした製品やサービスを生み出し、より良い社会を創造することに貢献したいと考えます。

■国立大学法人京都工芸繊維大学 概要

京都高等工藝学校(1902年)および京都蚕業講習所(1899年)に端を発し、時代の進展とともに百有余年にわたり発展を遂げてきました。また、伝統文化の源である古都の風土の中で、知と美と技を探求する独自の学風を築きあげ、学問、芸術、文化、産業に貢献する幾多の人材を輩出してきました。工芸科学部1学部で構成される工科大系大学ですが、バイオ、材料、電子、情報、機械、環境などの先端科学技術分野から建築・デザインまでの幅広い分野において、ものづくりを基盤とした「実学」をめざした個性ある教育研究を行っています。ホームページ：<https://www.kit.ac.jp/>

■マクセル株式会社 概要

1960年に日東電気工業(株)の乾電池、磁気テープ部門が分離独立し、マクセル電気工業として創業、1964年に日立グループ傘下に入ったのち、2017年に同グループから独立し現在に至ります。創業時と比べ取り扱う製品は変化していますが、創業時から培ってきた「混合分散(まぜる)」「精密塗布(ぬる)」「高精度成形(かためる)」という「アナログコア技術」を核に、現在は「ヘルスケア」「5G/IoT」「モビリティ」分野の取り組みを強化しています。ホームページ：<https://www.maxell.co.jp/>

■お問い合わせ先

京都工芸繊維大学 研究推進・産学連携課

TEL:075-724-7035

E-mail: sangaku@jim.kit.ac.jp

マクセル株式会社 経営戦略本部

電話:03-5715-7061

お問い合わせフォーム:

https://www.maxell.co.jp/contacts/inquiry_maxell.html

以上